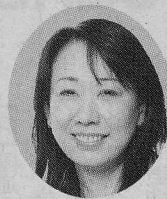


読むミルク



2003年2月27日のこのコラムで、レジオネラ菌の調査のため、営業時間の温泉施設の女風呂に無断で入り込んできた市役所の男性職員の話を書いた。公的機関に職員のモラルの指導を要望しようとしたが、某市役所↓保険センター↓県市役所↓保険センター↓県とたらい回しにされたうえ、「モラル指導は管轄外」と言われ、時間の無駄と嫌

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

サービスは利用者の視点で

な思いつか残らなかった。なぜ、こんな話をまた持ち出すかと言つと、その後、改善されるどころか、同じようなことを体験したり、周囲から聞いたりしたからである。

例えば、「女性起業家交流会 in HOKURIKU」の代表として、行く

起業支援施策は「商工会議所か商工会」と言われたところ。さらに、商工会では「担当地域でないの、別の商工会に行ってくれ」と言われ、挙句に、担当地域の商工会では「農業は対応していない」と言われた、という悲惨な例もあった。

また、先日、客船で北海道と車を規制していた。この場所はT字の大きな交差点で車の通行量も多く、ゲート以外に停車できない場所はない。さらに、かなり大人数のツアーだったので、私を含めて何十台もの車が迎えに詰めかけ、ゲート前の狭い場所でUターンもできず、右往左往して

先々で女性から起業する際の問題点や、手続きで苦労している話を聞く。

ある農業系の起業を目指す女性が市役所に行ったら、「男女共同参画の部署」を紹介された。その部署に行くと、起業に関しては「商工労働部署」に行くように言われ、商工労働部署では、

旅行に行っていた母を迎えに車で金沢港に行った。金沢駅から金沢港に向かう道路の突き当りに、壁のような大きな客船が接岸されていたが、乗客が降りて来るゲートに入ろうとすると、入り口で警備員が手を「X」の形にして「ここは許可がないと立ち入り禁止だ！」

もしれない。が、家族としては、まさかゲートに車が入れないとは考えなかった。重い荷物を持った高齢の身内を船まで迎えに行くのは自然なことである。そのうえ、幹線道路に戻ろうとしても、車の切れ目も、係員の誘導も、信号もない。無理やり出て行くこととする車も多く、「危ない！」と感じるシーンの連続だった。

「観光石川」や「開かれた金沢港」、「県民・市民の安全を守る」、「県民・市民の目線に立ったサービス」を標榜するのであれば、各関係機関に改善を切望する。しかし、どこに言えばいいのか？

根性と忍耐を持って窓口を探そうとすれば、冒頭のような目にあう可能性が大きい気がする……。